

# 第11回 サポートホール高松デビューリサイタル

## 出演者インタビュー vol.3

### 3月5日(日) 第1部 宮川 優子 / ソプラノ



～私にとって音楽とは？～

いざ歌を止めると、自然とまた歌ってしまう  
まるで喧嘩しても、いつの間に  
仲直りしてしまっている  
“ 家族 ” のような存在

高松市出身で、現在、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程声楽専攻2年生の宮川優子（みやがわ ゆうこ）さんにインタビューしました。

#### — 今回、「デビューリサイタル」に応募した理由をお聞かせください。

学部生時代から先輩方がこのデビューリサイタルに出演し、多方面で活躍されているのを拝見しておりましたので、私もデビューするなら、憧れであり、大好きなふるさと高松のこの舞台からと思い、今回応募いたしました。

#### — 声楽を始めようと思ったきっかけを教えてください。

中学校入学と同時に合唱部に入ったことがきっかけです。最初は吹奏楽部に入部するつもりでしたが、入部届を出す直前で合唱部に変更しました。中学校に合唱部がなければ、もしかしたら楽器を吹いていたかもしれません。

#### — 心を動かされた曲や聴いてみてほしい曲はありますか？

私は普段クラシックだけではなくジャンルを問わず様々な音楽を聴くのですが、クラシックだと G.Puccini のオペラが大好きです。1 作品ごとに素敵なアリアが沢山ありますので、是非聴いてみてください。

#### — コロナ禍で演奏活動が制限される中、特に大変だったことはありますか？

マスクをつけての歌唱やパーテーション越しでの演奏を余儀なくされたことです。マスクをつけての演奏はやはり歌いづらく、パーテーション越しだと相手の声も聴こえづらいため大変でした。

#### — 最後に一言をお願いします。

歌うことの楽しさを沢山学んだ故郷の香川県でデビュー出来ること、身の引き締まる思いです。お客様やお世話になった方々への感謝の気持ちも込めて精一杯演奏させていただきます。3月5日、穴吹学園ホールでお会いできること、今から楽しみにしております。